

第 17 回 65 期テニスの集い@蕨

原田義則 (3 組)

前夜の雨も上がり絶好のテニス日和となった 4 月 23 日 (日) に第 17 回目となる同期テニスの会 (春の部) が 関賢治君 (2 組) を幹事として関君の地元蕨市で開催されました。

参加者は関君の他、テニスの会の取り纏めで上田から参加の布施修一郎君 (6)、高崎からの中山正光君 (11)、千葉からは牧野泰晴君 (1)・宮沢憲一君 (10)、神奈川からの内堀信君 (6)、東京からの佐藤徹郎君 (7) に加えて地元埼玉からの若柳直人君 (4)・浅倉英樹君 (4) と報告者を含めた古希目前の同期 10 名。

11 時より始めた肩慣らし、足慣らしもそこそこに早速試合を開始。午後 3 時までの 4 時間で全員が 6 試合を戦う計 15 試合で日頃の練習の成果を披露しました。前後左右に走る能力の衰えは隠しようがないものの、参加者全員のスキル (と口撃力) は年々向上している様子。日頃の鍛錬の成果をいかに発揮した者がいた一方で、残念なことに期待した通りの結果が出なかった仲間もいたようです。終盤の 3 時近くになると多少足がつり始めた者がいたものの、怪我や体調不良を起こす者は一人もおらず、平和裏に試合は終了しました (次ページにすべての試合終了後の集合写真掲載)。

その後、昨年同様、蕨の会会長の成澤文和君 (4) を加えて宴会となったのですが、恒例となっていた近くの銭湯での裸の付き合いが、今回はその「銭湯が廃業」と言う予期せぬトラブルに見舞われたため無くなり、結局試合後、更に銭湯跡まで往復 3 k m 程の歩行訓練をすることになりました。お陰で、今年は例年に増して美味しくビールを飲むことが出来ました。また未だお顔を拝見する機会のない関夫人からの差し入れ (銘酒「獺祭」) も美味しく頂きました。3 時間も楽しい時間を過ごしたのですが、報告者は会話の内容の殆どを覚えていませんので割愛します。

ただ第 18 回目となる秋の部はこれまた例年通り布施修一郎君の取り纏めで 10 月 28 日-29 日に軽井沢のエキシブでの実施することが決まり、再会を約束してお開きとなりました。それまでに各人、体力の維持とスキルの向上に一層の努力を積みたいものです (集合写真掲載)。

(17 年 4 月 25 日)



後列左より 内堀、若柳、中山、牧野、宮澤、関
前列左より 原田、浅倉、布施、佐藤



立っているダンディーな関
座っている 牧野、若柳、佐藤、布施、浅倉、原田、内堀、宮澤、成澤（左より）
中山は早退